

## 第4学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日(〇)〇校時

場 所 4年〇組教室

授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名 正しいと思うことは自信を持って行う「A-(1)善悪の判断, 自律, 自由と責任」

### 2 ねらいと教材

#### (1) ねらい

人に左右されないで, 正しいと判断したことは自信を持って行おうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

#### (2) 教材名

「ドッジボール」(東京書籍 新しい道徳4)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は, 小学校学習指導要領特別の教科道徳, 内容項目「A-(1)善悪の判断, 自律, 自由と責任」の「正しいと判断したことは, 自信をもって行うこと」を受けている。高学年では, 「自由を大切にし, 自律的に判断し, 責任のある行動をすること」に発展していく。

人に左右されることなく, 自ら正しいと信じることに従って誠実かつ謙虚に行動することは, 人として重要なことである。自ら正しいと信じることは, 過信や自分勝手ではなく, よいと思ったり正しいと判断したりすることができる力を伴った自信や自律的な態度でなくてはならない。正しいと知りつつもそのことがなかなか実行できなかつたり, 悪いことと知りながらも周囲に流されたりすることもあることも考えながら, 正しいと判断したことは自信を持って行おうとする態度を育てることが大切であると考え, 本主題を設定した。

#### (2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の児童は, 3年時に「二つの声」の授業で, 「正しいことを行えないときのうしろめたさ」や「SL公園で」の授業で, 「正しくない判断したことは行わないようにすることや正しくないと考えられることをしている人を止めること」について学習してきた。しかし, 新学期が始まり, 新しい友人関係が築けずにいる児童や不安を抱えている児童も多く, 正しいと知りつつもそのことをなかなか実行できなかつたり, 悪いことと知りながらも周囲に流されたり, 自分の弱さに負けたりしている様子も見受けられる。そこで, 授業を通して, 人に左右されないで, 正しいと判断したことは自信を持って行おうとする道徳的実践意欲と態度を育てていきたい。

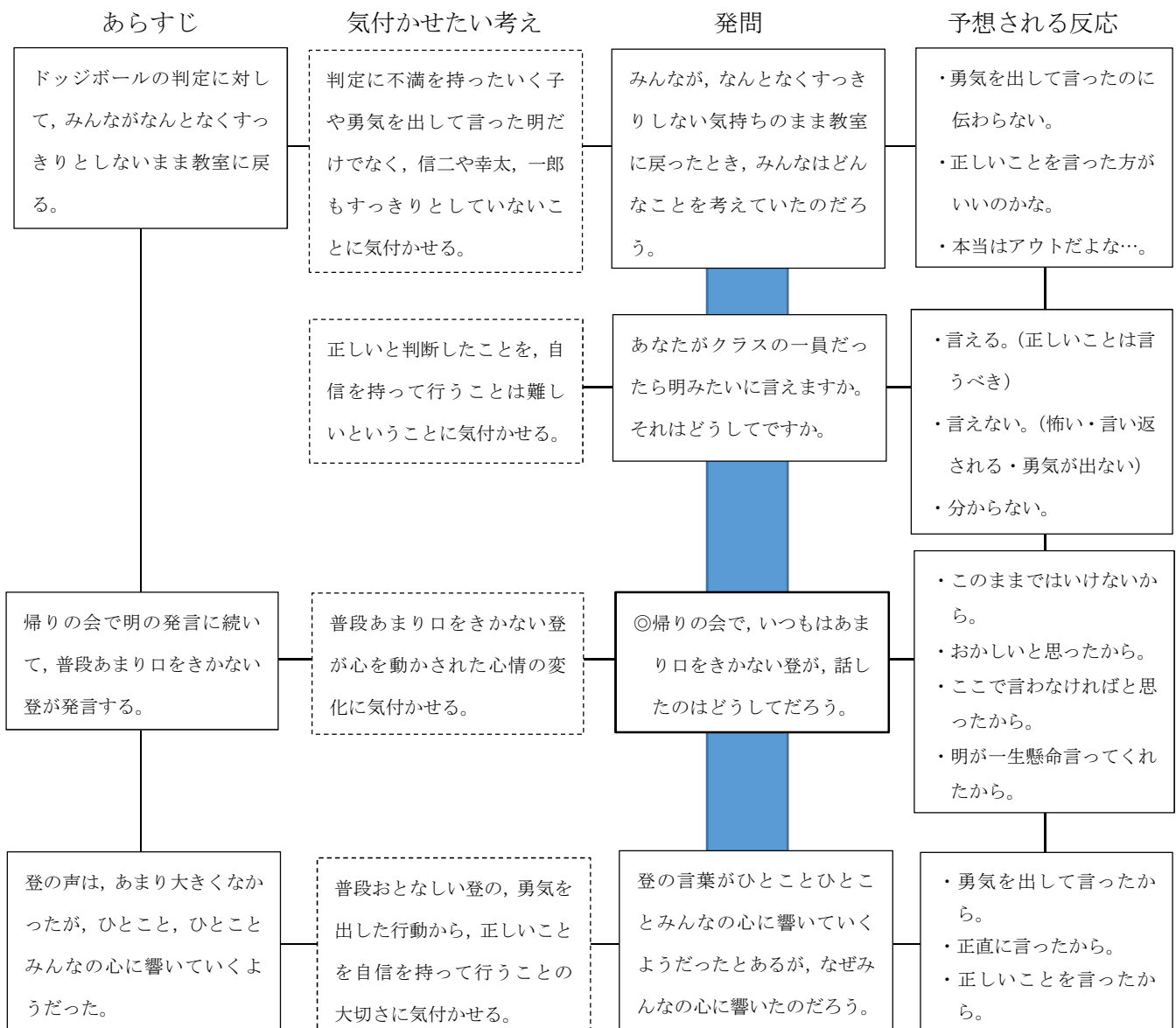
#### (3) 使用する教材の特質

本教材は, 昼休みにドッジボールでの判定を巡って起こったトラブルの話である。いく子が投げたボールが地面すれすれで一郎に当たる。一郎はバウンドしたからセーフだと言い張る。その状況を一郎の

すぐ後ろで見ていた明もアウトだと思ったが、一郎はいつも威張っているため言えずにいた。しかし、「正しいことは、やっぱり、はっきりと言わなければいけないんだ」と考え、思い切って言うことにした。ところが、一郎が「自分はセーフだ」と言い張るだけでなく、明と同じ赤組の信二や幸太まで一郎に味方する。いく子が言い返した時、チャイムが鳴り、みんなはなんとなくすっきりしないまま教室へ戻った。明は帰りの会の反省会で昼休みのことが気になったので真っ先に手を挙げて自分の意見を言うが、またしても一郎に反対されてしまう。すると、普段おとなしい登が立ち上がり、「ボールはバウンドしていない。一郎さんの言うことには何でも賛成する人たちも考え直してもらいたい」と言った。その言葉は、ひとこと、ひとこと、みんなの心に響いていくようだった。

勇気を出して正しいことを言おうとする気持ちや、周囲に流されたり、自分の弱さに負けてしまいそうになったりする気持ちは、登場人物の言動を通して理解しやすいと考える。本時の授業では、自分との関わりで考えさせるために「あなたがクラスの一員だったら、明のように言えますか」と問う。言える、言えないの両方の立場からその理由を考えさせ、全体で共有させることで自信を持って行うことは簡単なことではなく、周囲に流されそうになったり、自分の弱さに負けそうになったりすることがあるということも感じながら、それでも正しいと判断したことを実行する大切さに気付かせたい。

#### 4 教材分析・発問構成



5 学習指導過程

	学習活動	指導上の留意点
	○主な発問 (◎中心的な発問) ・児童の反応	●補助発問
導入	<p>1 本時のねらいとする道徳的価値について問題意識を持つ。 (一斉)</p> <p>○友達が、絶対間違っているということを言っているとき、あなたならどうしますか。</p> <p>・言う</p>	<p>友達が絶対間違っていることを言っているとき、正しいことを言うか言わないかを問い、本時の課題に対する問題意識を持たせる。(問)</p> <p>・本時の課題を身近なこととしてつかませる。</p> <p>・友達が、間違っているということを言っているときに、正しいことを言うことは簡単ではない程度に押さえておき、課題を提示する。</p> <p>・授業の最後にもう一度同じことを問い、自己の考えの変化や深まりの視点とする。</p>
3分	<p>・言わない</p> <p>・分からない</p> <p>2 課題をつかむ。 (一斉)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>正しいと思ったことを行うために大切なことについて考えよう。</p> </div>	
展開	<p>3 教材の内容を把握し、登場人物の心情を考える。 (一斉)</p> <p>○みんなが、なんとなくすっきりしない気持ちのまま教室に戻ったとき、みんなはどんなことを考えていたのだろう。 (一斉)</p> <p>・(明) 勇気を出して言ったのに伝わらない。</p> <p>・(いく子) みんなが分かってくれない。</p> <p>・(まわりのみんな) 正しくなくても一郎には言いにくい…。</p> <p>・(信二・幸太) 正しいことを言った方がいいのかな…。</p> <p>・(一郎) セーフって言っているのに！ 本当はアウトだよな…。</p> <p>○あなたがクラスの一員だったら、明のように言えますか。それはどうしてですか。 (ペア → 一斉)</p>	
32分		<p>・登場人物が多いので、範読の前に登場人物について簡単に押さえ、内容を理解しやすくする。</p> <p>・クラスの一員の立場で考えながら聞かせる。</p> <p>・登場人物の心情に迫ることができるように、みんなが昼休みのドッジボールを楽しみにしていたこと、いく子の投げたボールはバウンドせず、一郎に当たっていること、一郎はいつも威張っている存在であることを押さえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>主人公の明だけでなく、クラスみんながすっきりしない気持ちだったのは、どんなことを考えていたかを問い、それぞれの立場から多面的・多角的に考えさせる。 (多)</p> </div> <p>・セーフと言い張った一郎も、一郎に味方した信二や幸太でさえもなんとなくすっきりしない気持ちであることに気付かせる。その上で、実際の言動の裏側にある心情を考えさせる。</p> <p>●信二や幸太は、正しいと思うことを言えたのではないですか。</p> <p>●一郎はセーフと言い張っているのにすっきりしないのですか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分がこのクラスの一員だったら・・・という視点で、明のように言えるかどうかを問い、自分との関わりで考えさせる。 (自)</p> </div>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・言う。 (正しいことは言うべき, 友達にあわせるのはよくない)</li> <li>・言えない。 (怖い, 言い返される, 勇気が出ない, 仲間外れにされる, 言っても無駄)</li> <li>・分からない。</li> </ul> <p>◎帰りの会で, いつもはあまり口をきかない登が話したのはどうしてだろう。 (ペア → 一斉)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このままではいけないと思ったから。</li> <li>・おかしいと思ったから。</li> <li>・みんなで楽しくドッジボールをしたいと思ったから。</li> <li>・ここで言わなければと思ったから。</li> <li>・明が一生懸命言ってくれたから。</li> </ul> <p>○登の言葉がひとことひとことみんなの心に響いていくようだったとありますが, なぜみんなの心に響いたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登が勇気を出して言えたから。</li> <li>・登が正直に言ったから。</li> <li>・登みたいに, やっぱり正しいことを言わないといけないと思ったから。</li> <li>・黙っていても良くないと思ったから。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>明のように正しいと思ったことを言えると答えた児童にも, 言えないと答えた児童にも, お互いの理由を共有 (他者理解・人間理解) することで, 多面的・多角的に考えさせる。 (多)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言える, 言えない, それぞれの立場からの理由が分かるように板書を工夫する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;評価&gt; 話合い活動を通して, 自分自身のこととして考え, 人に左右されないで, 正しいと判断したことを, 自信を持って行うことの大切さを考えようとしていたか。(自)【話合い・観察・発言】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言おうと決心した登の行動について, 近くの人と話し合う。</li> <li>・普段おとなしい登が言おうと決心したことについて深く考えさせるために補助発問を用意する。</li> <li>●言い返されるのが怖いのではないですか。</li> <li>●ドッジボールをしているときに言えばよかったのではないですか。</li> <li>●このまま登が言わずにいたら, どうなると思いますか。</li> <li>・普段おとなしい登が, ここで言わなければならぬと勇気を出したことに気付かせる。</li> <li>・心に響く (強く感動して印象に残る。心が引きつけられること) という言葉の意味を押さえる。</li> <li>●登の声はあまり大きくなかったのに, なぜ心に響いたのでしょう。</li> </ul>
<p>4 自己の生き方について考える。</p> <p>終末 10分 ○この授業を通して, 考えたことや感じたことを書きましょう。(個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくは, 最初, 言えないと思いました。言い返されるのが怖いからです。でも, そのままではよくないので勇気を出して言えるようになりたいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の考えの深まりや変化に気付かせるために, 導入の問題に触れ, 導入時の自分の考えと比較する視点を与える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>正しいと思ったことを行うために大切なことについて書かせることで, 自分の生活を振り返り, 自己の生き方についての考えを深めさせる。(生)</p> </div>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・登はすごいと思いました。最初は言えなかったけど、言えたからです。ぼくも、こういうことがあったら登みたいに頑張りたいです。</li> <li>・最初は、絶対間違っているということを友達に言わないって思って手を挙げたけど、すっきりするためにはやっぱり言わなければいけないと思いました。</li> </ul>	<p>&lt;評価&gt;</p> <p>正しいと思ったことを行うために大切なことを自分との関わりで考え、今後の生活にどのように生かすかを考えようとしていたか。</p> <p>(生)【ワークシート・観察・発言】</p>
---	---

(問)：問題意識を持たせる

(多)：多面的・多角的に考えさせる

(自)：自分との関わりで考えさせる

(生)：自己の生き方について考えさせる

【評価】

<児童の評価>

- ・話し合い活動を通して、自分自身のこととして考え、人に左右されないで、正しいと判断したことを、自信を持って行うことの大切さを考えようとしていたか。 (自)【話し合い・観察・発言】
- ・正しいと思ったことを行うために大切なことを自分との関わりで考え、今後の生活にどのように生かすかを考えようとしていたか。 (生)【ワークシート・観察・発言】

<教師側の授業評価>

- ・登場人物の言動に対する心情を考えることを通して、道徳的価値を実現することの難しさを児童に自分のこととして捉え、考えさせることができたか。 (自)【話し合い・観察・発言】
- ・正しいと思ったことを行うために大切なことについて書かせることで、自分の生活を振り返り、自己の生き方についての考えを深めさせることができたか。 (生)【ワークシート・観察・発言】

【板書】

○月○日 第 回 どうとく

正しいと思ったことを行うために大切なことを考えよう。

1. ドッジボール

正しい  
 思ったことを...  
 言う  
 言わない  
 分からない

登  
 ・勇気  
 ・正直  
 ・自信

すっきりしない  
 言えない  
 言う  
 すっきりする

<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝わらない</li> <li>・分かってくれない</li> <li>・言いにくい</li> <li>・言えない</li> <li>・気づかれている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こわい</li> <li>・言い返される</li> <li>・勇気が出ない</li> <li>・言わなくてもよい</li> <li>・誰かがいってくれる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しいことは言うべき</li> <li>・言わないともやもや</li> <li>・言わないのはよくない</li> </ul>
--	---	--

【準備物】

教師：教科書，ワークシート，人物絵

児童：教科書，筆記用具

6 他の教育活動との関連

